



◆5月上旬移植のコシヒカリでは、幼穂形成期に入りました。中干しを終了し、間断かんがいを行いましょう。「基肥+追肥」体系の水田では、追肥の準備をしましょう。

◆出穂期にはカメムシ類の防除を行いましょう！



1. 今年の気象と水稻の生育状況

1) 気象 (平均気温・日照時間・降水量)

◇平均気温

- ・6月第3半旬までは、期間内で平均すると概ね平年並みとなりました。
- ・6月第4～6半旬はかなり高くなり、日平均気温平均は26℃以上、日最高気温平均は30℃以上となりました。

◇日照時間

- ・5月後半はやや少なく、6月後半は多く、その他の期間は概ね平年並みに推移しました。

◇降水量

- ・6月15日にまとまった降雨がありました。6月第4半旬は降雨のない日が連続しました。
- ・また、関東甲信の梅雨入りは、6/10頃で平年(過去30年分)より3日遅いです。

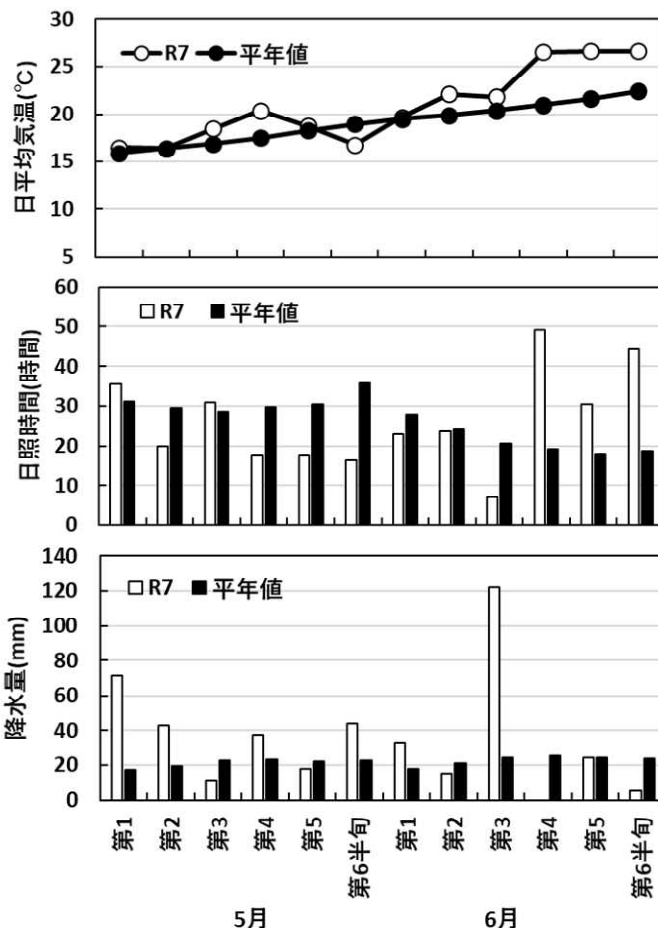


図1 平均気温・日照時間・降水量
(令和7年つくば市館野アメダスデータより)
(平年値は1991～2020)

＼ストップ！熱中症／

熱中症による死亡災害は、ほとんどが初期症状の放置・対応の遅れ（発見の遅れや医療機関に搬送しないなど）によるものと分析されています。令和7年6月1日から、労働者を雇用する事業者に対して、熱中症の重篤化を防止するための「体制整備」、「措置の実施手順の作成」、「関係者への周知」が義務付けられました。

(取組内容例)

- ・「熱中症」対応フロー張り紙の作成
(発症時の連絡先の確認、応急処置の方法の確認等)
- ・作業関係者全員による内容の確認

職場における
熱中症対策について
(厚生労働省 HP) ↓



熱中症警戒アラート
情報提供サービス
(環境省 HP) ↓



2) 水稻（コシヒカリ）の生育状況（田植え後 60 日頃）

コシヒカリ ～7月1日調査結果～

- ・コシヒカリの生育は、平年値（過去5ヶ年平均）と比べ、草丈は高く、茎数は少なく、葉色は概ね平年並みの傾向です。

調査地点	調査年	田植日	栽植密度 (株/坪) (畝間×株間)	草丈 (cm)	茎数		葉色 (葉色板)	葉色 (SPAD)
					本/㎡	本/株		
つくば市 上菅間	R7	5/1	50～55 (30×22～ 20)	85	423	27	3.4	30.5
	平年	5/1		71	555	-	3.7	33.8
つくば市 今鹿島	R7	5/4	50 (30×22)	82	449	30	3.6	34.3
	平年	5/1		70	562	-	3.6	32.3
つくばみらい市 中島	R7	5/3	61 (30×18)	83	583	32	3.0	34.2
	平年	5/1		73	607	-	3.0	33.5

※平年値は、過去5年間の数値より算出。

＜今年の出穂予測＞ 7月20～23日頃 ※調査時の幼穂長は、1.3～3.7mm

＜平年の出穂期＞ 7月23～24日頃

2. 今後の管理



ポイント1 幼穂の長さを測定し（図2）、出穂期までの日数を予測しましょう（表1）

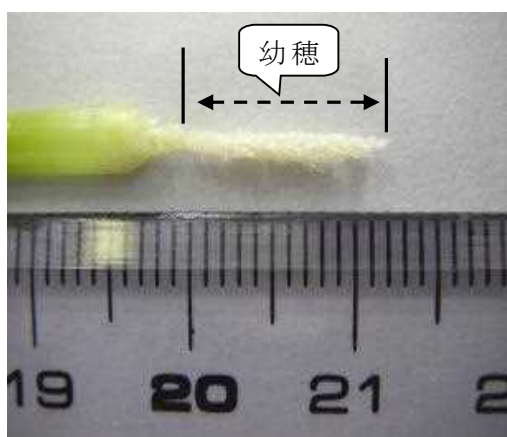


図2 幼穂長の測定方法

表 1 幼穂長を用いたコシヒカリの出穂期予測法

出穂期の予測	幼穂長 mm	平均気温+2℃						
		25	24	23~24	23	22~23	22	
	0.5 mm	25	24	23~24	23	22~23	22	
	1 mm	23	22~23	22	21~22	21	20~21	
	2 mm	21	20~21	20	20	19	18~19	18~19
	4 mm	19	18~19	18	18	17~18	17	16~17
	6 mm	18	17~18	17	17	16~17	16	15~16
	10 mm	16~17	16	15~16	15~16	15	14~15	14~15
	20 mm		14	14	13~14	13~14	13	12~13
	40 mm		12	12	12	11~12	11	11
	60 mm			11	11	10~11	10	10
	100 mm			9	9~10	9	9	8~9
	幼穂長 確認日	7月1日	7月6日	7月11日	7月16日	7月21日	7月26日	7月31日

※表中の数値は出穂期までの予測日数を表す。

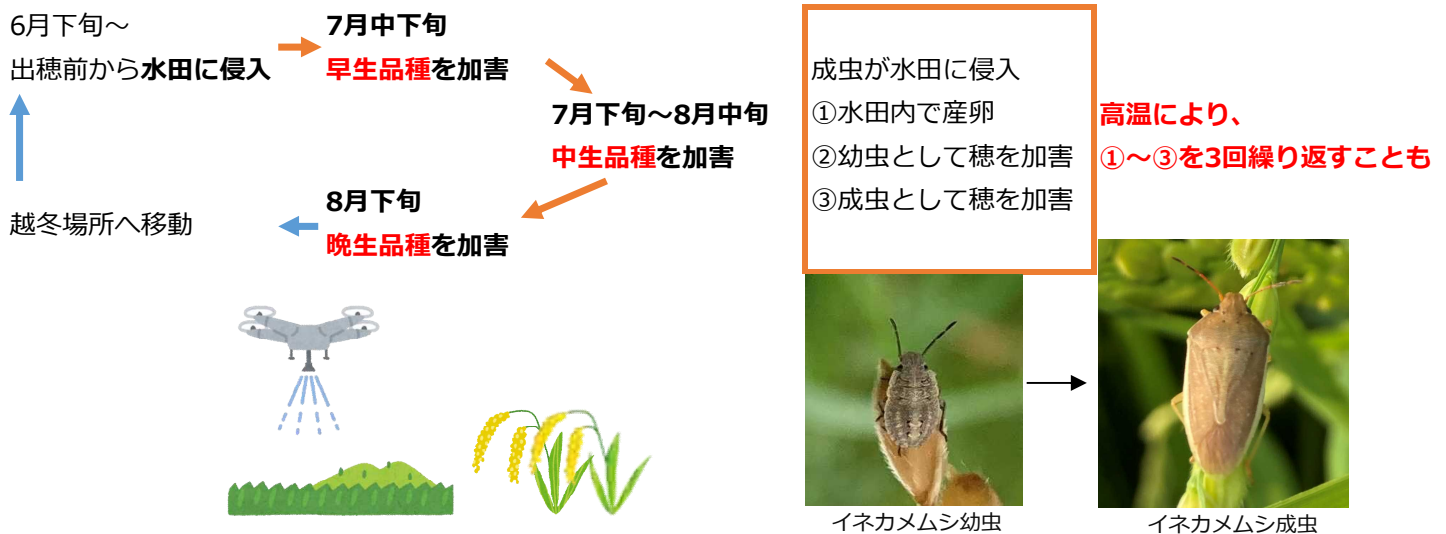
ポイント2 イネカメムシ対策

農薬を使用する際はラベルを必ず確認しましょう！

【発生・被害】

斑点米を発生させる他、出穂期に籾を加害することにより、不稔米を発生させます。

イネカメムシの生態



【対策】

他の斑点米カメムシ類と異なり、穂揃い期以降ではなく出穂期に防除することが重要。

今年も昨年に引き続き、出穂前の水田でも発生が確認されているため、遅れないように防除しましょう。

イネカメムシの薬剤防除

多発水田では、防除は2回実施しましょう！

1回目 成虫の飛来期

(出穂期～穂ぞろい期)

…この時期に集中的に加害されると

不稔（青立ち）になり、減収につながります。

2回目 幼虫の発生初期

(乳熟期：出穂後10～15日頃)

…この時期に集中的に加害されると

斑点米の発生につながります。

ポイント3 間断かんがいと乳白米の発生軽減

①出穂期まで：3～4日程度湛水管理（入水後、自然落水）し、落水状態で1～2日程度保つというサイクルを繰り返します。

②出穂期以降：湛水の継続日数を2～3日とし、自然落水と入水を繰り返し、落水後は田面が乾く前に入水しましょう（図3）。常時湛水や、田面が完全に乾くほどの水分不足にならないように気をつけましょう。

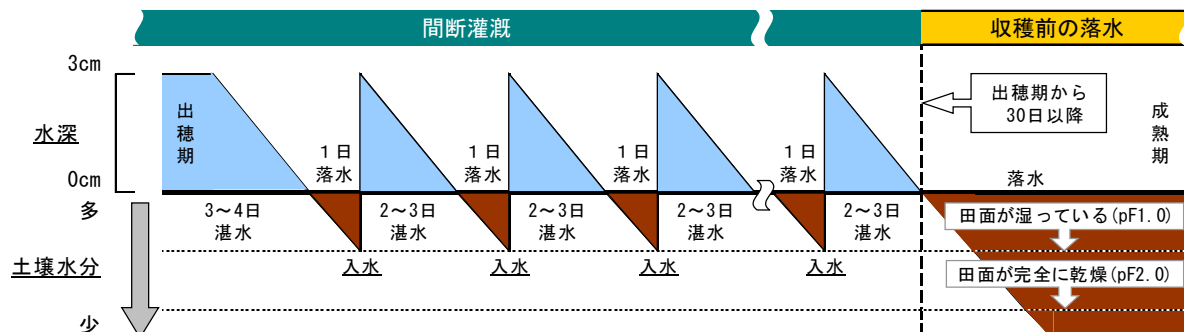


図3 出穂期後の間断かんがい

③成熟期前：早期落水は品質低下（乳白粒や胴割れ粒など）につながりますので、「間断かんがい」はできるだけ出穂後30日まで続けてください（最終入水は出穂期から27日以降になるようにしましょう）。

ポイント4 追肥（適正生育量の範囲内にあれば、追肥を行いましょう）

表2 品種ごとの適正生育量および追肥量

品種名	確認する時期	適正生育量	左記のように生育した場合の追肥量	作成
ふくまる	移植後55～60日 （出穂前20日頃）	草丈65～70cm 莖数500～550本/㎡ 葉色3.6～4.0程度	出穂前18日頃に窒素3kg/10a	茨城県農業総合センター 農業研究所
コシヒカリ	出穂前20日頃	草丈80cm以下 葉色4以下	出穂前15日頃に窒素1～2kg/10a	
にじのきらめき	～出穂期	-	出穂前25～15日（幼穂長1～30mm）に窒素3kg/10a	
夢あおば	出穂前25日頃	草丈81cm以上	出穂前20日頃に窒素3～5kg/10a	
		草丈71cm以上	出穂前20日頃に窒素5kg/10a	
		草丈71cm以下	出穂前25日頃に窒素7kg/10a	